

授業科目名	教職論	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>教職の服務と責任を理解し、その職務内容について学び、進路選択の機会を通じて教師という職業に就くことや教職の意義について考える。</p> <p>受講者が教職の専門性を十分に理解し、子どもに向ける教育者としてのまなざしを確立していくことで、自分なりの教師像、教育観を描けるようになることを目標とする。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>以下の内容について幅広く学び、教育の意義と進路の選択について考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職の意義に関する理解（教員免許制度と教員養成課程、教師の服務と身分保障、教育関連法規について等）</li> <li>2. 教職の職務内容に関する理解（子どもの理解と教師の役割、教育課程の編成と学習指導、生徒指導・学級経営・特別活動等の概要、チームとしての学校組織等）</li> <li>3. 教職の資質能力に関する理解（あるべき教師像、求められる資質能力、研修、教員免許更新制について等）</li> </ol> <p>なお、すべての授業において教科書・配布資料を活用した時間外の予習・復習および課題コメントの提出が必要となる。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>第1回：教職をめざす 教員免許制度と教員養成課程</p> <p>第2回：子どもの理解と教師の役割(1) 家庭との連携を考える</p> <p>第3回：子どもの理解と教師の役割(2) 学校の位置づけを考える</p> <p>第4回：子どもの理解と教師の役割(3) 社会との連携を考える</p> <p>第5回：子どもの理解と教師の役割(4) あるべき教師像を考える</p> <p>第6回：教師の服務と身分保障について</p> <p>第7回：進路の選び方 教師のライフコースを知る</p> <p>第8回：教師の職務(1) 教育課程の編成と学習指導要領の概要</p> <p>第9回：教師の職務(2) 授業デザインと学習指導</p> <p>第10回：教師の職務(3) 生徒指導と学級経営、特別活動</p> <p>第11回：教師の職務(4) チームとしての学校組織と同僚性</p> <p>第12回：教育改革と教師の未来(1) 教師に求められる資質能力とは</p> <p>第13回：教育改革と教師の未来(2) 教師の力量形成と研修</p> <p>第14回：教育改革と教師の未来(3) 教員免許更新制について</p> <p>第15回：まとめ 教職の意義と進路について考える (定期試験)</p>			
<b>履修上の注意</b>			
教職授業のため遅刻、欠席を原則として認めない。十分に注意のこと。			
<b>テキスト</b>			
佐藤学・秋田喜代美 『新しい時代の教職入門』（改訂版） 有斐閣アルマ 2015年			
<b>参考書・参考資料等</b>			
授業時間中に随時紹介する。			
<b>学生に対する評価</b>			
授業への参加状況および授業時間内外の学修状況（コメント等の課題の提出と内容）50%、および期末小レポート50%の総合評価。評価方法の詳細は初回授業で指示する。			

授業科目名	教育相談	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高必修科目	授業形態	講義（集中）
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒を理解する上での基礎理論について、その概要を理解していること。</li> <li>・学校カウンセリングや教育相談の実際について、その概要を理解していること。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>本授業では児童生徒の発達や様々な問題行動の基礎的な理解から始まり、児童生徒個人の内面の理解に焦点を当てた教育相談、さらに学校をシステムとしてとらえての児童生徒の支援の方法について論じる。</p>			
<b>授業計画</b> 第1回：子どもの発達と愛着 第2回：学校相談における「発達障がい」 第3回：学校相談における「こころとからだの不調1：精神科疾患」 第4回：学校相談における「こころとからだの不調2：心理アセスメント」 第5回：学級集団の理解と対応 第6回：カウンセリングの理論1：来談者中心法 第7回：カウンセリングの理論2：精神分析的療法 第8回：カウンセリングの技術：ブリーフセラピー（解決志向アプローチ） 第9回：子どもを勇気づける：アドラー心理学 第10回：学校現場の相談に関する対応方法1：非社会的問題行動（不登校・ひきこもり） 第11回：学校現場の相談に関する対応方法2：反社会的問題行動（いじめ・暴力） 第12回：学校現場の相談に関する対応方法3：学校内の協力体制と専門機関との連携 第13回：学校における心理教育1：SST（ソーシャルスキル・トレーニング） 第14回：学校における心理教育2：SGE（構成的グループ・エンカウンター） 第15回：学校におけるストレスマネジメント（認知行動療法とレジリエンス）			
<b>履修上の注意</b> 15回の授業を通じての内容をもとに、締め切り日までに課題レポートを提出すること。			
<b>テキスト</b> 作成したプリント（事例を含む）を適宜配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業の中で適宜配布する。			
<b>学生に対する評価</b> 授業への取り組み(50%)，レポートの点数(50%)を合わせて総合的に評価する。			

授業科目名	生徒指導・進路指導	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高必修科目	授業形態	講義（集中）
配当年次・学期	3・4年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 生徒指導は教科指導と両輪をなし、すべての学校教育活動に機能するものである。そのため学校教師は、生徒指導について専門的な理解と十分な能力が求められる。本授業では、この生徒指導に関する基礎知識を身につけ、子どもの成長や安全、健康を第一に考え適切に行動できるようになることを目的とする。併せて、子どもの実態や学校の教育課題を踏まえて生徒指導実践の計画、実施、評価をできる判断力と行動力を養うことを目指す。 キャリア教育の基礎的理論を通して、進路指導について理解し、進路指導における教師の指導的立場の視点から考えたうえで、時機をとらえた適切な指導方法のあり方について考えながら、学校現場に生かすことのできる指導法について確たるものを修得することを到達目標とする。			
<b>授業の概要</b> はじめに生徒指導実践に不可欠な基礎知識を学習し、子どもの実態や学校の教育課題を踏まえた生徒指導の難しさと取り組みの在り方について理解を深める。その際、道徳教育との関連を重視し、人間としての生き方とかかわらせて子どもの成長や安全、健康を第一に考える生徒理解の在り方や教師の役割について講義を行い、実践場面で求められる生徒指導のための判断力や行動力の基礎を養成する。適宜ミニワークなどを取り入れながら進める。 我が国のキャリア教育の中核をなす進路指導の意義と実践の歴史的経緯を知り、現在の学校教育におけるキャリア教育の意義と指導方法を理解する。進路指導、キャリア教育の基礎理論、実践のための指導方法、領域間の関連、評価と課題、地域社会との連携など、現場の実践事例を通して具体的指導方法などについて講義する。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション、生徒指導の概念 第2回：生徒指導の二つの側面 第3回：生徒指導と道徳教育 第4回：生徒指導の組織的連携 第5回：生徒指導と学級経営 第6回：生徒指導と教育相談 第7回：生徒指導の本質 第8回：進路指導の意義と変遷 第9回：進路指導とキャリア教育 第10回：キャリア教育と進路指導の意義 第11回：学校教育の課題と若年層就業問題 第12回：キャリア教育の理論と進路指導の展開 第13回：進路指導（キャリア教育）の実践と今後の展望 第14回：啓発的体験学習（職場体験、インターンシップなど）の意義とその指導 第15回：進路相談（キャリアカウンセリング）の意義およびキャリア教育の評価と課題 定期試験			
<b>履修上の注意</b>			
<b>テキスト</b> 文部科学省『生徒指導提要』2010年 国立教育政策研究所「キャリア教育のススメ」東京書籍 文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」教育出版			
<b>参考書・参考資料等</b> 文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『高等学校学習指導要領』、 国立教育政策研究所『規範意識をはぐくむ生徒指導体制—小学校・中学校・高等学校の実践事例22から学ぶ（生徒指導資料）』東洋館出版社 2008年 仙崎 武、渡辺 三枝子、菊池 武剋、野々村 新『生徒指導・教育相談・進路指導』田研出版 2012年			
<b>学生に対する評価</b> 授業への取り組み状況（授業終了後の振り返りカードの提出、演習への参加等）（30%）、 生徒指導に展開おけるレポートの提出（20%）、 進路指導とキャリア教育の展開におけるレポートの提出（20%）、 定期試験（30%）の総合評価。			

授業科目名	教育心理学 1	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 1) 認知心理学や教育心理学の分野から教授場面に関わる基本的な知識を理解する。(最終の試験によって評価する) 2) 小学校から中学、高校までの幅広い発達段階でおきる教育上の課題に関心を持ち、それを心理学の観点から考えられる。(努力目標ではあるが授業内に指名し発言を求めることで考えを促す) 3) 授業で学んだ成果を元に、専門の教科を中心とした授業を立案できる。(授業内で行うレポートによって評価する)			
<b>授業の概要</b> 授業の目的について形式陶冶と実質陶冶という古典的な議論をふまえ、その上で授業を通して知識を獲得する意義とその過程について、小学校から高校、中学までの各学校段階の実践例をもとに学ぶ。さらに、近年、導入が進められている問題解決型授業について、初等教育から高等教育までの発達段階ごとの授業づくりを考える。後半では、生徒の学力、学習意欲、学校適応などの問題について、近年行われた諸種の調査データから、学習指導上の課題や障害のある児童・生徒の発達や学習過程について考える。			
<b>授業計画</b> 第1回 学習行動の基礎と心身の発達 第2回 記憶と学習をめぐる障がいと教育 第3回 児童・生徒の創造性を育む授業づくり(障害をもつ児童・生徒を含む) 第4回 授業の目的—形式陶冶と実質陶冶 第5回 知識の獲得—知識の汎用性と実用性 第6回 知識の獲得を促す教授法—有意味学習によるスキーマの形成 第7回 知識の体系化を促す授業づくり—発達段階ごとの実践例をもとに 第8回 知識の獲得から問題解決へ—発達段階ごとの課題 第9回 問題解決に必要な思考力(1)—論理的思考力 第10回 問題解決に必要な思考力(2)—創造的思考力 第11回 問題解決に必要な思考力(3)—批判的思考力 第12回 問題解決力を育む授業—発達段階にあわせた「活用」のある授業づくり 第13回 学習意欲と学校適応—障害をもつ児童・生徒の事例も含む 第14回 学習意欲と学力の動向—PISA、全国学力調査などのデータから 第15回 これからの学力と学習意欲を考える—PISA型読解力と活用力 定期試験			
<b>履修上の注意</b> なし			
<b>テキスト</b> 必要に応じて配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 中学校・高等学校学習指導要領			
<b>学生に対する評価</b> 授業時間中に実施する複数回のレポート(50%)と試験結果(50%)を総合して評価する。再試験は行わない。レポートでは独自の授業案を考えることで到達目標の2と3を評価する。試験は授業内容の基礎的な理解を問う問題を出題し、到達目標の1について評価する。レポートは以下の4つの規準に従って評価する。 1) 分かりやすい文章で簡潔に説明できているかどうか。 2) 具体的な授業案として成立しているかどうか。 3) 授業で学んだ心理学の知識を踏まえているかどうか。 4) 独自性のあるアイデアが組み込まれているかどうか。			

授業科目名	教育心理学2	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高選択必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3・4年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>1) 黒板の字やスライドを単に写すのではなく、集中力を維持しながら必要な内容を汲み取りつつ、口述内容を含めて考えながらノートにまとめる聴解・聴取の能力が受講者に身につくようになる。</p> <p>2) 本講義に役立つ授業テキストの作成ができる。</p> <p>3) 生涯発達概念と特徴が理解できる。</p> <p>4) 教職希望者にとって必要と思われる生涯発達心理学に関する基本的知識や心理発達について学習し、生涯発達心理学の視点で考えることができるようになる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
人間の生涯にわたる発達の心理的特徴を理解し、学校教育課程に役立つように解説する。			
<b>授業の進め方等</b>			
<p>前回の補足説明→講義によるノート作成→シャトルカードの提出→ノートのまとめ(放課後)の手順で進める。上記の講義内容は、学生とのやりとりで変更する場合もある。</p> <p>教員養成のための基礎科目であるため、聴解力、読解力、集中力を必要とするかなり厳しい授業になります。講義の場に座っているだけでは受講とは言えません。積極的な取り組みを期待します。</p>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション・生涯発達とは何か			
第2回 発達障害の概念と「できる／できない」の捉え方			
第3回 赤ちゃんの基本的感覚・反射的行動・運動能力の発達			
第4回 気質（特性論的理解と支援のあり方）とその発達			
第5回 赤ちゃんのコミュニケーションと情緒的発達：愛着、人見知りなど			
第6回 言語的コミュニケーションへの発達過程			
第7回 非言語的コミュニケーション：身振りの発達			
第8回 描画表現の発達			
第9回 認知的発達段階と自己中心性			
第10回 青年期の基本的特徴と発達課題			
第11回 青年期の友人関係			
第12回 ジェンダーについて			
第13回 恋愛、結婚、離婚			
第14回 子育てと家庭			
第15回 成熟、加齢の意味、喪失			
<b>履修上の注意</b> この授業用のテキストを作成する編集者として受講する。			
テキスト：発達心理学 ～現代心理学入門2～ 岩波書店 ISBN4-00-003922-9			
<b>参考書・参考資料等</b> ：参考プリントなど随時紹介。「心理学小辞典」は予習、復習、テキスト作成に役立つ。			
<b>学生に対する評価</b>			
この授業のためのテキストを受講中に作成し、提出（返却はありませんので、必ずコピーは保存）。A4横書き縦置き左右開きの紐綴じ。手書き、ワープロ、カラー、図表や参考書などの引用は必ず引用文献、出典を明記すること。評価基準は以上の条件を遵守した上で、以下の通り。			
D（不可）：仮想されるテストに持ち込んでも役に立たない。			
C（合格）：教授内容がわかり、少なくとも重要な項目はすべて明記されている。			
B（良）：C基準に加えて、授業内容を理解するのに役立つ解説や説明、ポイントの指摘、補足もある。			
A（優）：Bの評価基準に加えて、図解や表が多く、きれいで見やすいばかりか、参考関連の内容について授業以上の内容（関連する内容で受講者の関心事）がこのテキストで自主的に学べる。モデルテキストとして次年度の授業に紹介できる。			
S（極優）：Aの評価基準に加えて、最新の学術論文に基づく研究報告もわかりやすく解説してあるなど水準が高い。モデルテキストとして次年度の授業に推薦できる。			

授業科目名	教育課程・方法論	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高必修科目	授業形態	講義（集中）
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 教育課程と学習指導の方法、技術の基本を理解し、生徒を指導、支援する基礎的な力をつける。教材と情報機器の活用方法についても事例を通して習得することを目指す。			
<b>授業の概要</b> 以下のアウトラインに沿って教育課程と教育方法の基本について学ぶ。 ・教育方法の基本となることと具体的な方法 ・情報機器の活用方法 ・教育課程を編成するための基本となることと編成の具体的な方法			
<b>授業計画</b> <b>【教育方法分野】（第1回～第7回）</b> 第1回：学習指導の前提となること 第2回：子ども理解（見取り） 第3回：学習指導の基本原理 第4回：教材論（教材研究および教材の活用を含む） 第5回：授業方法1（学習指導案と指導方法、情報機器の活用） 第6回：授業方法2（授業形態、情報機器の活用） 第7回：評価と授業改善 <b>【教育課程分野】（第8回～第14回）</b> 第8回：教育課程とは何か（教育課程の意義を含む） 第9回：教育課程編成の基礎 第10回：教育課程編成にかかわる教育法制（学習指導要領を含む） 第11回：教育課程編成の方法 1（目標と内容） 第12回：教育課程編成の方法 3（内容の組織） 第13回：教育課程編成の方法 4（内容配列と評価） 第14回：教育課程改革の動向 <b>【まとめ、試験】</b> 第15回：まとめ（教育課程と教育方法） 定期試験			
<b>履修上の注意</b>			
<b>テキスト</b> 平野朝久「はじめに子どもありき－教育実践の基本－」東洋館（税込み1,500円） その他、授業の理解を深めるために必要な資料は随時印刷して配布する			
<b>参考書・参考資料等</b> 中学校学習指導要領，高等学校学習指導要領			
<b>学生に対する評価</b> 定期試験（60%）、授業時に行う小レポート（40%）			

授業科目名	教育学原論 1	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次後期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 教育の理念および教育に関する様々な理論、思想と歴史、教育の社会・制度・経営的事項の基礎について理解することを目的とする。 受講者が「教育とは何か」を深く考えていくための基礎的な知識、また現代教育の課題を考えていくための柔軟な思考力を培うことを目指す。			
<b>授業の概要</b> 以下のテーマ・内容について取り上げ、テキスト、参考文献、画像・映像資料を活用しながら講義を行い、原則として毎回授業内容についてコメントを執筆してもらう。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の理念、子ども観や学びの諸相、子どもの発達と人間形成、諸外国および日本の教育思想と歴史、教育の公共性等</li> <li>2. 社会変動と教育理論・教育制度の関わり、教育課程と教育評価、子どもの理解と生活指導、キャリア教育支援、生涯学習と学校、現代社会における教育の課題と展望</li> </ol>			
なお提出されたコメントは次回授業の導入と議論の発展に活用する。教科書の授業該当箇所（授業初回に指示する）についての予習、毎授業で配布される参考資料を活用しての復習を要する。			
<b>授業計画</b> 第1回：教育とは何か 「教育」の定義と人間形成 第2回：人間の発達と教育の理念 第3回：子ども観の変遷と教育理論(1) 前近代の教育と文化伝達の方式 第4回：子ども観の変遷と教育理論(2) 近代学校の成立と定着・不信 第5回：子ども観の変遷と教育理論(3) 公教育の展開と20世紀以降の学校教育 第6回：日本の学校の展開と特徴 第7回：「学び」の諸相とリテラシーの構築 第8回：社会変動の中のペダゴジーとアンドラゴジー 第9回：学校教育を支える法制度と教育行政 第10回：教育課程と教育評価の構造 第11回：子どもの理解と生活指導 ー多様な視点から子どもを見るー 第12回：キャリア形成支援 ー学校接続をふまえた進路指導ー 第13回：公教育としてのシティズンシップ教育 第14回：生涯学習時代の学校教育の課題 第15回：現代社会と教育の公共性 定期試験			
<b>履修上の注意</b> 教職科目であり、遅刻、欠席を原則として認めないため十分に注意すること。			
<b>テキスト</b> 木村 元・小玉重夫・船橋一男 『教育学をつかむ』 有斐閣 2009年			
<b>参考書・参考資料等</b> 今井康雄編 『教育思想史』 有斐閣アルマ 第三刷 2011年 その他授業時間中に資料を配布し、参考文献を随時紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 授業への参加状況および授業時間内外の学修状況（コメント等の課題の提出と内容）50%、期末レポート50%の総合評価。評価方法の詳細は初回授業で指示する。			

授業科目名	教育学原論 2	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高選択必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次前期	単位数	2 単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>教育学原論 1 の授業で学んだ教育の理念・歴史・思想および学校教育の社会的・制度的な理解を基礎としながら、以下の 2 つの目標に向けて教育に関する学習をさらに進めます。</p> <p>①子どもの人間形成という視点から、教育という営み一般ならびに学校教育の意味と機能、可能性と限界について論理的に説明する能力を獲得する。</p> <p>②教育現場と教育制度を構成する社会的背景について理解し、現代社会の子どもをめぐる様々な問題に立ち向かう思考力を身につける。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>以下のテーマに関する参考文献や DVD 等の映像資料等を活用しながら、子どもと教育をめぐる原理的な問題および社会的な問題について理解を深め、他の受講者とのディスカッションを通して現代教育の課題と展望について考えます。授業内容についてコメント等の提出課題を課すことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の成立の歴史的・社会的背景および公教育としての学校の現実について</li> <li>・子どもの学習能力とその機能、および人間形成の実際について</li> <li>・教育一般の必要性和公教育の意味について</li> <li>・学校における社会問題と「子どもの孤立」について</li> <li>・家庭・家族をめぐる社会問題と家庭—学校間の連携について</li> <li>・早期教育をめぐる議論と芸術的才能に対する教育支援について</li> </ul>			
<b>授業計画</b>			
<p>第 1 回：イントロダクション：教育・人間・社会  第 2 回：家族の亀裂と「子どもの孤立」  第 3 回：学校における「子どもの孤立」  第 4 回：家族・学校・社会の連携  第 5 回：早期教育をめぐる議論(1) —諸外国、日本における才能と教育の歴史—  第 6 回：早期教育をめぐる議論(2)—芸術における才能と教育支援—  第 7 回：グループディスカッション —現代教育の課題と展望—  第 8 回：総合ディスカッションと中間評価  第 9 回：学校の誕生と公教育の成立(1)——「学校」の誕生とその背景  第 10 回：学校の誕生と公教育の成立(2)——「学校」による教育の独占化  第 11 回：「学校」とは何か—現代における学校の意義と役割  第 12 回：教育のない時代・教育のない文化—多様な「学び」の現実  第 13 回：「教え」と「学び」(1)—教室の誕生の歴史  第 14 回：「教え」と「学び」(2)—子どもの人間形成の実際  第 15 回：教育の必要性和教育の意義</p>			
<b>履修上の注意</b>			
教職授業のため遅刻、欠席を原則として認めませんので十分に注意してください。			
<b>テキスト</b>			
テキストは使用しない。必要に応じて随時配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗 『教育の社会学—常識の問い方、見直し方』 有斐閣アルマ 2010 年</p> <p>紺野祐・走井洋一・小池孝範・清多英羽・奥井現理 『教育の現在——子ども・教育・学校をみつめなおす』(改訂版), 学術出版会, 2011 年</p> <p>耳塚寛明編 『教育格差の社会学』 有斐閣アルマ 2014 年</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
授業への取り組み状況 (コメント等授業内の課題の提出と内容、ディスカッションへの参加等) (50%)、期末レポート (50%) の総合評価。			



授業科目名	教育実習 1	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高必修科目	授業形態	実習（集中）
配当年次・学期	3・4年次通年	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 中学校・高等学校の教員免許状取得のための学校における実習科目である。中学校・高等学校における教育指導の諸体験を通して、教育職員として必要な知識・技能ならびに態度を身に付けることが目的であり、教育そのものを理解し、その意義を再考することができる。実習生は、観察実習・授業実習・授業以外の実習・実習校内反省会・実習記録を通して、教育の実践的知識、技術を身に付ける。			
<b>授業の概要</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導教員をはじめとする実習校教員および他の実習生の授業を参観する。</li> <li>2. 学級運営、学校行事、課外活動等に参加する。</li> <li>3. 授業実習および研究授業を行う。</li> </ol>			
<b>準備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校との連絡・実習校の事前調査等</li> <li>・実習の目的、自己目標の設定、実習計画の作成</li> <li>・教材研究、授業計画と学習指導案の準備</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習校の指導教員より実習計画および実習期間中の諸注意について指導を受け</li> <li>2. 指導教員の指導に基づき、教材研究、授業計画と学習指導案の作成、授業実習を</li> <li>3. 指導教員の指導に基づき、生徒理解と生徒指導、教科外活動、学級指導・経営に</li> <li>4. 大学の担当教員が実習校を訪問して研究授業を参観し、実習生、実習校指導教</li> </ol>			
<b>事後</b> 実習後の確認（記録の整理、礼状等について）			
<b>履修上の注意</b> 教育実習事前事後指導を履修済みであること			
<b>テキスト</b> 未定			
<b>参考書・参考資料等</b> 未定			
<b>学生に対する評価</b> ※実習態度、学習指導、生徒指導、総合評価等の項目について、実習校の評価（50%）を受けて、大学側の評価（50%）を加味して総合的に判断する。 ※実習態度に関する評価（実習校及び大学指導時含む）が著しく劣る場合他の項目の判定によらず不合格となることがある。			

授業科目名	教育実習 2	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中必修科目	授業形態	実習（集中）
配当年次・学期	3・4年次通年	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 中学校の教員免許状取得のための学校における実習科目である。中学校における教育指導の諸体験を通して、教育職員として必要な知識・技能ならびに態度を身に付けることが目的であり、教育そのものを理解し、その意義を再考することができる。実習生は、観察実習・授業実習・授業以外の実習・実習校内反省会・実習記録を通して、教育の実践的知識、技術を身に付ける。			
<b>授業の概要</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導教員をはじめとする実習校教員および他の実習生の授業を参観する。</li> <li>2. 学級運営、学校行事、課外活動等に参加する。</li> <li>3. 授業実習および研究授業を行う。</li> </ol>			
<b>準備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校との連絡・実習校の事前調査等</li> <li>・実習の目的、自己目標の設定、実習計画の作成</li> <li>・教材研究、授業計画と学習指導案の準備</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習校の指導教員より実習計画および実習期間中の諸注意について指導を受け</li> <li>2. 指導教員の指導に基づき、教材研究、授業計画と学習指導案の作成、授業実習を</li> <li>3. 指導教員の指導に基づき、生徒理解と生徒指導、教科外活動、学級指導・経営に</li> <li>4. 大学の担当教員が実習校を訪問して研究授業を参観し、実習生、実習校指導教</li> </ol>			
<b>事後</b> 実習後の確認（記録の整理、礼状等について）			
<b>履修上の注意</b> 教育実習 1 を履修済みであること			
<b>テキスト</b> 未定			
<b>参考書・参考資料等</b> 未定			
<b>学生に対する評価</b> ※実習態度、学習指導、生徒指導、総合評価等の項目について、実習校の評価（50%）を受けて、大学側の評価（50%）を加味して総合的に判断する。 ※実習態度に関する評価（実習校及び大学指導時含む）が著しく劣る場合他の項目の判定によらず不合格となることがある。			

授業科目名	教育実習事前事後指導	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高必修科目	授業形態	講義（集中）
配当年次・学期	3・4年次通年	単位数	1単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 事前指導としては、教育実習に必要な手続きと心構え（教育者及び社会人としての礼儀、常識など）について認識を新たにし、学習指導案や教材活用方法、実習日誌作成等、授業実習に必要な知識と技能を身に付ける。そして教育実習を行う実習校について、学生自身が事前に十分調査研究（地域の特性・学校規模・学齢期など）を行い実態の把握に努め、生徒とどのように接し、どのような姿勢で授業づくりを行うのかを、ディスカッション、ロールプレイング、模擬授業などを通して、教育実習の事前の基礎力をはぐくむ。 事後指導としては、学生からの実習報告や実習を参観した教員の講評、実習レポートの作成等を通して、実習体験の反省・問題点・成果等について考察し、実習経験の共有化を行う。			
<b>授業の概要</b> 1. 教育実習に必要な知識等と心構え（教育者及び社会人としての礼儀、常識など）、学生の調査指導、ディスカッション等について学習する。 2. 具体的な教育内容（表現と鑑賞の領域）および学習指導要領の理念・内容、ロールプレイング、模擬授業等を行う。 3. 実習報告等に関する指導の他、学級経営における集団指導と個別指導について学習する。 4. 実習体験の反省・問題点・成果等について考察し、実習経験の共有化を行う。			
<b>授業計画</b> 事前指導：4年次教育実習前の2日間（宿泊研修） 1. 教育実習に対する心構え 2. 実習の内容理解と事前準備について 3. 教科外活動、校務の理解とポイント 4. 教材の選び方と活用方法 5. 学習指導案の作成方法 6. 模擬授業 7. 実習日誌の作成方法  8～11 1. 実習校教員による事前指導：日程については別に指示する  事後指導：4年次10～11月、教育実習全日程終了後の2日間 1 2. 実習の振り返りと自己評価 1 3. 実習報告会と教育実習を参観した教員の講評 1 4. 他の学生を交えた質疑応答、教員による全体講評 1 5. 実習レポートの作成と今後の課題の設定			
<b>履修上の注意</b> 実習関連以外の教職課程科目を履修済みであること。外部講師による講演・指導を予定している。 宿泊研修は、宿泊費等の実費負担あり。5,000円程度（宿泊費、食費、教材費込）			
<b>テキスト</b> 随時指示・配布する			
<b>参考書・参考資料等</b> 随時指示・配布する			
<b>学生に対する評価</b> 授業への参加状況（授業終了後の振り返りカードの提出、模擬授業への参加等）（30%）、学習指導案の提出（20%）、外部講師講演会への参加とレポート提出（20%）実習日誌の提出（10%）、実習報告会への参加と実習レポートの提出（20%）の総合評価。			

授業科目名	教職実践演習(中・高)	担当教員名	
授業科目区分	教職課程科目		
履修区分	中高必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次後期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>教職課程における学修の内容を総合し、新たな専門知識や実践スキルを身につけながら教育者としての資質を高めることを目的とする。自己評価や事例研究を通じての課題の発見や役割モデルの構築、ディスカッションやロールプレイング、ポートフォリオの作成・発表を通じた社会性とコミュニケーション能力の向上などを通し、教職課程および教職課程以外の授業において学生が身につけた資質能力を教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合していくことを目指す。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの学修の振り返りと課題の設定</li> <li>2. 事例研究とグループディスカッションによる表現力、授業力、生徒指導力の向上</li> <li>3. 現地調査とグループディスカッションによる教員の職務の理解と役割モデルの構築</li> <li>4. 自己理解、ロールプレイング実践による社会性とコミュニケーション能力の向上</li> <li>5. ポートフォリオの作成と発表による学修の総合</li> </ol>			
<b>授業計画</b>			
第1回 イントロダクション、教職の意義と教員の責務について [卒業生講話、ワークショップ]			
第2回 美術科指導の実際①(指導案の検討) [ワークショップ]			
第3回 美術科指導の実際②(指導展開の工夫) [ワークショップ]			
第4回 美術科指導の実際③(模擬授業による成果と課題の把握) [マイクロティーチング]			
第5回 学級開きと学級経営について [ワークショップ]			
第6回 学級PTAでの指導方針表明と継続的保護者対応について [ワークショップ]			
第7回 安全教育について [ワークショップ]			
第8回 学級経営及び学校教職員間の連携について [ワークショップ]			
第9回 家庭との連携及び学校教職員間の連携について [ワークショップ]			
第10回 道徳教育について [ロールプレイング]			
第11回 PTA活動及び保護者対応について [ロールプレイング]			
第12回 学級崩壊、いじめ・不登校を防ぐ手だてについて [ワークショップ]			
第13回 教職員の不祥事絶無への対応について [ワークショップ]			
第14回 地震・水害・不審者等、学校における緊急対応について [ワークショップ]			
第15回 理想の教師像と自分について [集団討論]			
<b>履修上の注意</b>			
教育実習1を履修済みであること			
<b>テキスト</b>			
各回の主たる担当教員が必要に応じて指示する。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
各回の主たる担当教員が必要に応じて指示する。			
<b>学生に対する評価</b>			
出席と授業への参加状況(ディスカッションの参加等)30%、事例研究・現地調査の参加と報告40%、ポートフォリオの作成と発表20%、まとめレポートの提出10%により、教員としての資質能力を確認して単位認定を行う。			